

↑肥後大津駅南側のイメージ

地方分権が進み、複雑多様化する行政ニーズに素早くかつ的確に対応するため、自主的で自立的な行政運営が、行政に求められています。

「大津町まちづくり基本条例」の理念に基づいて、町民と議会、町長が、それぞれの役割を認識し、協働でまちづくりを携わることが大切だと考えています。

第五「改革と分権の時代の新たな行財政運営」

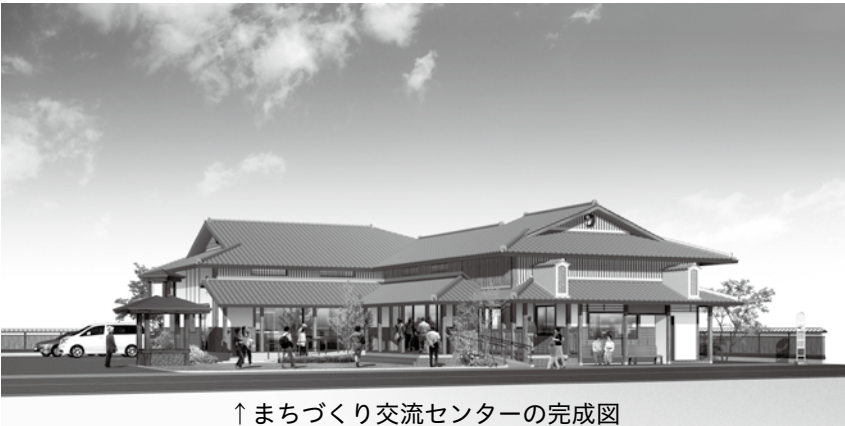
第5次大津町振興総合計画の後期計画をスタート



※NIE (Newspaper in Education) とは、「教育に新聞を」をテーマに、学校などで新聞を教材として活用することです。実践指定校は533校（平成22年）あり、全国で展開しています。

したまちづくりを町民の皆さんとともに、創意、工夫を重ねて、町の振興総合計画のキャッチフレーズであります「みんなでつくる元気 大津 人と自然にやさしい 心かよいあう まち」の実現のため、全力で各種施策の推進に取り組みます。町民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

道路は、県道「西鶴中井迫線」が、今年度中に完成の予定で、また町道本田技研325号線についても4月から一部供用開始を行っており、全線早期完了に向けて鋭意取り組んでいます。縦軸の道路整備により、国道57号や都市計画道路「三吉原北出口線」の東西の道路と併せて、通勤や生活道路として交通網の整備ができるものと考えています。身近な道路については、優先順位をつけて、車両



↑まちづくり交流センターの完成図

平成25年4月には、大津小学校過大規模解消のため、大津小学校分離校が、美咲野地内に開校します。今後も引き続き、教育環境の充実に努めます。

生涯学習は、地域のつながりの希薄化が言われていますが、大津まちおこし大学の活動などを通じて地域リーダーやボランティアの育成に努めます。またスポーツは、近年の健康志向型のニーズに合わせて底辺拡大を図り、運動公園を活用して競技力の向上とスポーツ交流を通じて地域活性化と観光振興に努めます。

さらに教育委員会に外部評価委員会を設置します。教育委員会が実施する事務、事業の点検や評価を行い、町民の視点に立った施策の充実に図ります。

人権啓発は、昨年度「大津町男女共同参画都市宣言」を行いました。引き続き、同和問題をはじめ、男女間の暴力行為、高齢者への虐待、ハンセン病に関わる人権侵害など、さまざまな人権問題の解消を図るために人権啓発福祉センターを拠点に取り組みます。

第四「魅力的で快適な生活環境づくり」

地球温暖化防止や地球環境と共に生きていくために、引き続き住宅用太陽光発電システム設置に対する補助を行っています。ごみの資源化を進めるため、容器包装リサイクル法に定めるプラスチックの

現在、各行政区に役場職員を「地区担当職員」として配置しています。情報を町民の皆さんへ伝え、皆さんの要望をしっかりと把握することで情報を共有し

た地域づくりの支援を行います。

平成

23年度は、第5次大津町振興総合計画後期基本計画のスタートの年となります。後期基本計画は、行政と町民との共通のまちづくりの目標である成果指標を設定しました。行政評価とともにその成果についても検証しながら進行政管理を行います。

町の行財政運営も、厳しい状況が続いていますが、行財政改革大綱と後期改革プランに基づいて健全財政の運営に努めます。事業の優先順位をつけながら、長期的視野に立ち、将来に誇れるまちづくりを行います。

以上が、今後のまちづくりにおける私の基本的な考え方です。「地域主権」の大きな流れのなかで、地域の特性を生か

報発信のために、大津中央バス停横に「まちづくり交流センター」を整備することとしています。また特産品を使った新商品の開発の調査研究を進めたいと考えています。さらに、法務局大津出張所跡地につきましては、既存施設を整備し、町の歴史と文化を次世代に継承していくための活動拠点にしたいと考えています。

第三「未来を拓くふるさとづくり」

昨年、策定した大津町教育基本構想に基づき、夢を持ち、夢を育み、夢を叶える教育実践を行っていきたいと考えています。学習支援指導員や特別支援補助員を増員し、学校教育指導員を新たに配置し、児童生徒の基礎学力の充実と向上、教育課程の円滑な実施や授業力の向上を

情報発信と観光の振興のために まちづくり交流センターを整備

き企業の情報収集に努め、積極的に企業誘致を進めます。

商業と観光は、参勤交代の宿場町として栄えた大津の街並みを蘇らせるために、町民の皆さんの意見を伺いながら、まちづくり活動団体の支援、中心市街地の活性化、観光物産の振興と大津町の情

と歩行者が安全に通行できる整備に努めます。また旧国道57号沿いに街路灯を設置し、安心、安全なまちづくりを目指します。

九州新幹線が全線開業しました。

肥後大津駅は、まちの玄関口であり、顔です。交通の通過点となるのではなく「おもてなしの心」で、人を呼び、そこで交流が生まれて情報を共有しあうことができるようなまちづくりを進めます。

そのために、駅の南側に、バスやタクシーの乗降場、自家用車駐車場や駐輪場などがあるバスロータリーと、その一角

駅の南側に、南口機能を持つ ビジターセンターを9月に

ます。また駅へのアクセス道路である「駅前乗善線」も、平成26年度末の早期完了を目指して、事業の推進に努めています。防災は、大規模災害時にも対応できるようにデジタル防災行政無線を整備しました。今年度に整備する「子育て健康広場」を緊急、災害時の避難場所として活用します。さらに駅北側にある駅前パトロールセンターを拠点に防犯活動を推進していきます。